

授業科目名： スポーツ原理	教員の免許状取得のため の 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：神野 周太郎 担当形態 単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する科目「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学(運動方法学を含む。)		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通理解教育の理念を認識し、体育・スポーツ実践へと繋げること。 ・ 多様な他者の存在を認め、排除せず、仲間を作るという星槎大学の建学精神に則り、共生社会の創造に寄与する姿勢を身につけること。 ・ 共生社会創造という目的に向けて、学び続ける意欲を持つこと。 			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 「体育・スポーツとは何か?」という問いから出発し、その歴史、概念、価値や意義について総体的な理解を深め、現代における体育・スポーツの在るべき姿について考えられるようになる。</p> <p>(2) 最終的に、体育・スポーツに共通する「人間が運動するということ」にどのような意味があるのか、そして「体育・スポーツとは何か」という問いに対して、自分なりの言葉で回答できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「体育・スポーツとは何か」という問いを背景に、体育・スポーツに関わる様々な事柄(体育授業、身体運動、運動技術、勝敗、運動部活動、体罰等)を問い直し、それに関する認識の深化を図る。なお、リアルタイムスクーリングにおいては、ディスカッション、グループワークなどを導入し、体育やスポーツに関する情報の共有、思考の深化を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：スポーツとは何か</p> <p>第2回：体育とは何か</p> <p>第3回：教科としての体育の成り立ち</p> <p>第4回：身体教育という考え方</p> <p>第5回：「運動を指導する」ための考え方</p> <p>第6回：身体文化教育という考え方</p> <p>第7回：体育・スポーツ指導者</p> <p>第8回：スポーツ指導の問題性</p> <p>第9回：競技者の世界と理想の姿</p> <p>第10回：オリンピックと世界平和</p> <p>第11回：スポーツのルールを考える</p> <p>第12回：スポーツにおける美しさを考える</p> <p>第13回：コミュニティとスポーツをめぐる諸問題</p>			

第14回：スポーツと人間との良好な関係を考える

第15回：人間が運動することの教育的意味

定期試験

スクーリングでの学修内容

体育・スポーツを考える際、その中心にあるのは「運動する人間」である。「運動する人間」の姿は、ある時には遊んでいる、ある時はスポーツする人間の姿である。そこには人間と人間の関わり（教育、スポーツ指導、集団ゲーム）があり、一方でより高く、速く、強く、上手く、心地よく、美しく、といった卓越性をめざす営みがある。「人間が運動すること」とは、その切り取り方により様々な解釈が可能となる。従って、スクーリングでは、第1回から第15回の内容を横断的に取り扱いつつ、「人間が運動すること」の教育的意味を考える。（主に、1、2、3、4、15回の内容を含む。）

なお、リアルタイムスクーリングにおいては、ディスカッション、グループワークなどを導入し、体育やスポーツに関する情報の共有、思考の深化を図る。

教科書

高橋 徹（編）『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』（みらい）2018年

参考文献

（1）久保 正秋『体育・スポーツの哲学的見方』（東海大学出版会）2010年

（2）友添 秀則、岡出 美則（編）『教養としての体育原理 新版:現代の体育・スポーツを考えるために』（大修館書店）2016年

学生に対する評価

レポート評価（25%）、スクーリング評価（25%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。